

かくだ

第194号

平成29年11月1日



ライブ・録画配信やってます
<http://www.kakuda-city.stream.jfit.co.jp/>

※詳細は12ページ



Kakuda city



▲決算審査特別委員会による現地調査のようす（平成29年9月11日 野田排水区雨水ポンプ場にて）

■おもな内容■

第390回定例会

- ◇本会議の概要……………2～10
- ◇審議結果一覧……………3
- ◇決算審査特別委員会……………3
- ◇常任委員会等の構成……………4
- ◇一般質問……………5～10

第389回臨時会

- ◇本会議の概要……………10

- ◆行政視察の報告……………10～11
- ◆議会日誌……………12
- ◆12月定例会日程（予定）……………12
- ◆編集後記……………12

平成28年度の決算を 認定しました

第390回定例会は9月1日に招集され、市長提出議案が11件、議員提出議案が1件、あわせて12件の議案を審議しました。上程された議案は、慎重に審議され、33日間の会期を経て10月3日に閉会しました。

本会議

◎第1日（9月1日）

会期を10月3日までの33日間と決定した後、市長から平成28年度健全化判断比率についての報告など2件の報告がありました。

続いて、教育委員会委員の任命について提案理由の説明があり、質疑、討論、表決の結果、原案のとおり同意しました。

次に、市長から上程された平成29年度各種会計補正予算など9議案について提案理由の説明の後、会計管理者による平成28年度決算の説明と南部信一監査委員による決算審

査報告がありました。

◎第2日（9月11日）

初日に提案された議案に対し、高橋力雄議員、黒須貫議員、小湊毅議員、日下七郎議員、八島定雄議員、武田曉議員の6人が質疑を行いました。

続いて、平成28年度各種会計決算の認定の議案について、決算審査特別委員会（高橋力雄委員長、黒須貫副委員長）を設置して付託しました。

◎第3日（9月22日）

角田市復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正についてなど、条例の一部改正3議案について、討論、表決を行い、いずれも原案のとおり

可決しました。

次に、平成29年度角田市一般会計補正予算（第3号）など4議案について、討論、表決を行い、いずれも原案の通り可決しました。

その後、一般質問が行われ、5人の議員が市政全般について質問を行いました。

◎第4日（9月25日）

22日に引き続き、6人の議員が市政全般について質問を行いました。

◎第5日（9月26日）

決算審査特別委員会に付託した2議案の審査結果について報告があり、審議の結果、

いずれも賛成多数で認定しました。

次に、意見書の提出に関する議員提出議案1議案について提案理由の説明があり、表決の結果、原案のとおり可決しました。

◎第6日（10月3日）

市長から追加提出された、平成29年度角田市一般会計補正予算（第4号）について提案理由の説明があり、審議の結果、原案のとおり可決しました。

その後、任期満了に伴う常任委員及び議会運営委員の改選が行われたほか、委員会の閉会中の継続調査の件について決定し、閉会しました。

審議された議案の審査結果

は、3ページの表1のとおりで、主な内容は次の通りです。

主な補正予算の概要

▼平成29年度一般会計（第3号）

歳入歳出予算の総額にそれぞれ4億2,962万3千円を追加するとともに、債務負担行為及び地方債の補正を行うものです。

歳入の主なものは財政調整基金繰入金追加で、歳出の主なものは次のとおりです。

- ・賑わいの交流拠点施設整備事業
- ・道路改良事業

陳情の処理

▼「全国森林環境税の創設に関する意見書」の提出を求める陳情

新潟県村上市三之町1番1号
全国森林環境税創設促進議員連盟

会長 板垣一徳

意見書の提出

国の関係機関へ次の意見書を提出しました。

▼全国森林環境税の創設に関する意見書

人事案件

▼教育委員会委員の任命について

安藤 藤正 夫 氏（再任）

○任期 平成29年10月1日～平成33年9月30日

表1

第390回定例会審議結果一覧

議員数は17人。議長は表決に加わらないため、表決に参加した議員は16人。(○…賛成、×…反対)

件名		議決年月日	議決結果	会派				
				市民クラブ	志政クラブ	日本共産党 角田市議団	創生会	無会派
市長提出議案								
人事案件	教育委員会委員の任命について	9月1日	同意 (賛成14 反対2)	○	○	×	○	○
平成29年度補正予算	角田市一般会計補正予算(第3号)	9月22日	可決 (賛成12 反対4)	○	○	×	×	○
	角田市国民健康保険事業特別会計補正予算(第1号)	9月22日	可決	○	○	○	○	○
	角田市後期高齢者医療特別会計補正予算(第1号)							
	角田市介護保険特別会計補正予算(第2号)	10月3日	可決	○	○	○	○	○
角田市一般会計補正予算(第4号)								
決算	平成28年度角田市一般会計及び各種特別会計歳入歳出決算の認定について 平成28年度角田市水道事業会計決算の認定について	9月26日	可決 (賛成14 反対2)	○	○	×	○	○
条例	角田市復興産業集積区域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正について	9月22日	可決 (賛成14 反対2)	○	○	×	○	○
	介護保険条例の一部改正について 市営住宅条例の一部改正について	9月22日	可決	○	○	○	○	○
議員提出議案								
意見書	全国森林環境税の創設に関する意見書の提出について	9月26日	可決 (賛成14 反対2)	○	○	×	○	○

《各会派構成メンバー》

- 市民クラブ (高橋力雄、湯村勇、星守夫、細川健也)
- 志政クラブ (堀田孝一、八島利美、武藤広一、黒須貴)
- 日本共産党角田市議団 (日下七郎、八島定雄)
- 創生会 (小湊毅、武田暁)
- 無会派 (会派に属さない議員) 馬場道晴、渡邊誠、相澤邦戸、小島正、柄目孝治

表2 平成28年度 各種会計歳入歳出決算一覧表

(単位：千円)

会計区分	決算額		
	歳入	歳出	
一般会計	13,614,265	13,205,003	
特別会計	国民健康保険事業	3,748,776	3,701,050
	後期高齢者医療	304,838	303,769
	介護保険	2,969,663	2,829,892
	公共下水道事業	2,288,983	2,286,501
	農業集落排水事業	98,843	98,698
	東根財産区	727	727
	小計	9,411,830	9,220,637
企業会計	水道事業	1,019,013	1,002,510
	収益的支出	1,019,013	1,002,510
	資本的支出	68,429	448,454
計	1,087,442	1,450,964	
合計	24,113,537	23,876,604	

決算審査特別委員会

9月11日の本会議で、監査委員の湯村勇議員を除く議員16人で構成する「決算審査特別委員会」を設置しました。
 第1日目は、正副委員長の互選を行い、その後、現地調査を行いました。
 第2日目は、一般会計決算の趣旨説明と質疑を行いました。
 第3日目は、各種特別会計決算と水道事業会計決算の趣旨説明と質疑を行った後、こ

の特別委員会に総務財政分科会、教育厚生分科会及び産業建設分科会を設置しました。各分科会は、同月14日と15日に審査を行いました。
 第4日目は、各分科会長から審査結果の報告があり、表決の結果、賛成多数で原案のとおり可決すべきものと決しました。
 各種会計歳入歳出決算は、表2のとおりです。

常任委員会等の構成

任期：平成29年10月3日～平成31年9月30日

<h2>産業建設常任委員会</h2> <p>産業建設部、農業委員会、水道事業所の所管事項について、調査や審査を行います。</p>	<h2>教育厚生常任委員会</h2> <p>市民福祉部、教育委員会の所管事項について、調査や審査を行います。</p>	<h2>総務財政常任委員会</h2> <p>総務部、会計課、議会、選挙管理委員会、監査委員会、固定資産評価審査委員会の所管事項について、調査や審査を行います。</p>
 <p>◎委員長 やしま としみ 八島 利美 ①志政クラブ ②高倉字新町194-5 ③65-2054</p>	 <p>◎委員長 たかはし りきお 高橋 力雄 ①市民クラブ ②角田字町123 ③62-4184</p>	 <p>◎委員長 ほった こういち 堀田 孝一 ①志政クラブ ②君萱字仏供田13 ③68-2809</p>
 <p>○副委員長 むとう こういち 武藤 広一 ①志政クラブ ②毛萱字平吾1 ③65-2225</p>	 <p>○副委員長 くろす とおる 黒須 貴 ①志政クラブ ②島田字四拾刈12 ③62-0241</p>	 <p>○副委員長 ほそかわ けんや 細川 健也 ①市民クラブ ②角田字泉町17 ③63-3348</p>
 <p>たけだ あきら 武田 暁 ①創生会 ②尾山字横町27 ③62-1132</p>	 <p>やしま さだお 八島 定雄 ①日本共産党角田市議団 ②横倉字平41-2 ③62-5540</p>	 <p>こみなと たけし 小湊 毅 ①創生会 ②笠島字竹ノ内6-1 ③65-2393</p>
 <p>わたなべ まこと 渡邊 誠 ①無会派 ②鳩原字瀬ノ木橋41 ③69-2057</p>	 <p>ばば みちはる 馬場 道晴 ①無会派 ②花島字里前139 ③68-3017</p>	 <p>ほし もりお 星 守夫 ①市民クラブ ②佐倉字小山東196 ③62-2520</p>
 <p>ゆのむら いさみ 湯村 勇 ①市民クラブ ②横倉字古長岡11 ③62-1532</p>	 <p>あいざわ くにこ 相澤 邦戸 ①無会派 ②角田字町100 ③62-2475</p>	 <p>くさか しろう 日下 七郎 ①日本共産党角田市議団 ②島田字桜井2-1 ③63-2405</p>
 <p>おじま ただし 小島 正 ①無会派 ②小田字西屋敷95 ③62-5366</p>		 <p>つかのめ こうじ 柄目 孝治 ①無会派 ②角田字牛館12 ③62-3171</p>

議会運営委員会

議会の運営や会議規則・委員会条例などについて、調査や審査を行います。

◎馬場道晴 ○八島利美
武田暁 堀田孝一
八島定雄 高橋力雄

議会だより編集会議

議会だよりの編集・発行や議会のホームページなど、議会の広報に関することを協議します。

★八島利美 ☆八島定雄
武田暁 堀田孝一
馬場道晴 高橋力雄

凡例：①所属会派
②住所
③電話番号
◎委員長
○副委員長
★会長
☆副会長



角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の「達成困難」と判断した目標項目について

小 湊 毅

議員▼平成28年1月に角田市まち・ひと・しごと創生総合戦略が作成されました。角田市が今後も持続可能な自治体であるために、現状を把握し、将来を見据えた上で、平成31年度までに達成すべき目標を掲げ、実現させていくための指標であります。37項目の目標項目について、数値で

の目標値が設定されています。目標値の設定に際し、努力目標としての値ではなく、現実的で十分に実現可能な値を設定しているという旨の説明でした。「達成困難」と判断した4項目のうち3項目が、4つの大分類の中の「若い世代が子どもを産み育てやすい環境の整備」の項目に当たります。なぜこのような状況になったのか、今後どのような施策を行っていくのか伺います。

市長▼全国的な少子化の流れに歯止めをかけ出生数を増やしていくことは、並大抵のことではありませんが、認定こども園の新設や角田保育所の民設民営などハード面の整備をはじめ、ソフト面では婚活イベントや特定不妊治療費助成事業の継続、さらに今年度から対象者を18歳までに拡充した子ども医療費助成事業など、若い世代の結婚、妊娠、出産、子育てといったそれぞれのライフステージに応じた総合的な支援策を講じ、長期的な視点で出生数の増加や子育て環境の充実に努めていきたいと考えています。

議員▼子どもは本当にかわいいんですけれども、育てるのは本当に大変だ

と思います。いろんな施策をしているからそれでいいじゃないか、というような問題ではなくて、若い世代の方々の思いをよく聞いて施策を打っていく必要があると思いますが、角田市はそれができていないと考えています。本当に若い方々の御意見をよく聞いた上でこの施策を打っているのか、そういう自負があるのか伺います。

市長▼若い人たちの思いはしっかりと聞いていますが、なかなか子どもは生まれにくいということがあります。人口構成上、20代、30代が減っているという状況の中で、婚姻件数、出生数を増やしていくのは難しいという状況にあるのは確かです。結婚して所帯を持つ、その所帯を持つに当たって、いらっしやいプランなり、保育所の入所なり、そういったことをしっかりとやっていくということ、若い人たちの思いに配慮しているつもりであります。が、まだまだ十分ではないと思っています。また、角田市の力だけではなかなかできないことだと思っております。

○小湊議員その他の質問
賑わいの交流拠点施設整備事業全般について

議員▼本市のため池の管理・点検は誰が、どの様に行っているのか伺います。

市長▼近年の大規模地震や豪雨などにより、多くのため池が被災していることを踏まえ、本市では宮城県が主体となり平成25、27年度の3カ年でため池の一斉点検を実施しております。また、多面的機能支払交付金事業の活動におきましても、ため池の管理点検を実施しています。市内には85カ所のため池がありますが、日常の管理は地元行政区及びあぶくま川水系角田地区土地改良区にお願いしており、草刈りや清掃等の管理点検を実施していただいております。

議員▼古い時代に築造されたものが多く、堤体、余水吐、取水施設等が老朽化している現状であり、早急に対策を講じなければならぬため

ため池の防災・減災対策
及び有効活用について

堀田 孝一

池はあるのか伺います。

市長▼早急に補修等が必要と思われるため池は6カ所あります。現場の状況を確認しながら、随時対応していきたいと思っております。今年度は2カ所を予定しており、その後については、平成30年度までの計画で対応していきます。

議員▼ため池での水難事故を防ぐためには、ハード対策（注意看板、転落防止柵等）とソフト対策（研修会、講習会等）の両面での対策が必要と考えますが、市長の所見を伺います。

市長▼学校に隣接した箇所や住宅の近くにある優先順位の高いため池から転倒防止等の安全施設の設置を検討しなければならぬと考えています。釣りや水遊び等が予想されるため池については、特に注意を喚起する看板を設置したり、事故の未

然防止の対策を講じておりますが、全てフェンスを張ることは、現実的に難しい面がありますので、水難事故の防止を図る観点から、揚水開始前にチラシの配布、広報等で周知をしていきたいと思っております。また、多面的機能支払交付金事業を実施している組織との連携も図りながら、注意喚起の看板等の設置を検討していきます。

議員▼内町湖（ため池）周辺を角田市の観光名所として整備を図り、交流人口の増加につなげるべきと思いますが、市長の所見を伺います。

市長▼新たな整備をするということになると、相当、手を加えなくてはならないと思っております。老人福祉施設内町荘等の周辺環境の整備として管理を続けていくことで良いのではないかと考えています。



政府の米政策改革（減反政策見直し）に伴う角田市独自の制度新設について

武藤 広一

議員▼米の減反政策が平成30年度から見直され、水田農業の大転換期を迎えます。国は、水田活用の直接支払交付金により、水田フル活用を支援するとしていきます。大きく変わる点は①平成30年度以降も収入減少緩和対策・ならし対策は実施、②米の直接支払交付金の1反あたり7,500円の廃止の2点以外は基本的には変わらないとしております。

農家にとって大きな問題は、②の直接支払交付金が廃止され収入が減少することです。この7,500円があることにより、土地改良区経常経費の相当分を賄うことができず、この収入減少に対応するため、角田市独自の制度として「仮称かくだ直接支払交付金」を新設する考えはないでしょうか。

市長▼何とかしたい気持ち

ちはありますが、相当な財政負担が伴いますし、国の方針が転作を奨励するということであり、今までのところ新設の考えはありません。

議員▼今年の夏の日照不足により、稲の作柄を見ますと、平年より2割から3割の減収が予想されます。時限的な措置として稲作農家等へ助成する考えはないでしょうか。

市長▼今年の米の収穫については大変心配をしており、現在情報収集をしており、現在情報収集をしており、幸い米の概算金が5年前の米価に戻ってはいないものの、今後の被害状況を見極めながら、何らかの判断が必要になると思います。

議員▼生産費に占める割合が大きい土地改良区賦課金に対し助成金制度を新設し、土地改良区に助成することにより、農家の経営を間接的に支援する考えはないでしょうか。

市長▼これまで何度か一般質問をいただいたところですが、土地改良区は管理範囲に丸森町の受益が含まれており、町の理解が得られないと進められない状況にあります。

また、これまでも各種の助成を行っており、今後、国営による江尻排水機場の改修や各種営事業も予定されているため、角田市における多額の事業負担が必要になります。

議員▼私も前職が土地改良区職員ということもあり、市が農家に真剣に対応していただいており、多額の経費負担をいただいていることに感謝しております。例えば、冷害や異常気象時に限って、助成していただくことはできないでしょうか。

市長▼今後の経過や推移を見ながら判断していきたいと思っております。

議員▼強い農業をつくるための国の方針のもと、平成28年4月1日に改正農業委員会法が施行されました。角田市でも、平成29年7月20日に新制度のもと、新たな農業委員が任命されスタートしました。角田市の農業振興に大いに御活躍いただけるものと期待しています。

農業政策について

渡邊 誠



長に所信を伺います。農業委員会会長職務代理者▼7月20日に市長から、農業委員会委員として任命をいただき、第1回農業委員会総会において、会長に選出されました。選出後の最初の議案として、農地利用最適化推進委員の委嘱に係る議案を審議・決定し、7月25日に8人の認定農業者を含む、地域の農業に精通した信頼の厚い17人の方々を委嘱しました。また、農業委員においても、14人中9人が認定農業者であり、これまで以上に農業者の意見を反映した総会での意思決定ができるものと考えています。

改正された農業委員会法では、農地等の利用の最適化の推進が重要な業務として位置付けられています。農業委員と推進委員は、お互いに連携協力することにより、農地利用の最適化を強力に押し進め、農政課・農業振興公社・農業関連団体等と連携しながら角田市の農業振興に寄与するため努力していきます。

議員▼農業委員会の新体制を踏まえ、人・農地プラン推進事業を、どのように進めていくのですか。

市長▼人・農地プランは、これまで角田市全域で1

つのプランとしていますが、今年度から、より地域の実情に即したものとするため、7地区に分割し作成しました。

これは年1回、地区別の検討会を開催してきましたが、今後は農業委員・農地利用最適化推進委員・関係機関等の方々にも積極的に参加していただき、随時検討会を開催し、地域の農業のあり方等について、地域の担い手の方々とともに検討したいと考えています。

みやぎアスリート2020指定選手に対する支援策について

議員▼角田市ゆかりのアスリートがみやぎアスリート2020の指定を受けた場合、角田市独自の支援策を講じる考えはありませんか。

市長▼オリンピックを目指す角田市出身のアスリートは角田市民一体となって応援するため、スポーツ振興基金を活用し、角田市出身の競技スポーツ選手がみやぎアスリート2020の指定を受けた場合に対応するため、角田市独自の支援制度について検討したいと考えています。



ナラ枯れの被害調査と防除対策について

日下七郎

ナラ枯れの被害調査について

議員▼現在、阿武隈高地の枝野1区から東根鳩原までの山林に、ナラ枯れの被害が大量に発生しています。

ナラ枯れとは、カシノナガキクイムシという甲虫が、ナラ菌（正式名

ラファエリア菌）を伝播することによって起こる樹木伝染病で、6〜7月にかけてナラ類などの樹木が急に集団的、大量に葉が茶褐色に枯れる被害があります。

そこで、市長に角田市内のナラ枯れ被害調査を行うことについて伺います。

市長▼本市におきましては、平成25年度に始めてナラ枯れ被害調査を行った結果、小田地区から笠島地区にかかる芋坊林道沿いの山林にナラ枯れの被害が集中的に発生していることが判明したことから、平成26年度以降につきましては、林道のパトロールや市民、行政区長からの通報、仙南中央森林組合からの聞き取り等により情報収集を行い、随時職員が現場で被害木の本数を調査し、宮城県

防除対策について

議員▼ナラ枯れを引き起こすカシノナガキクイムシは「森林病害虫等防除法」の規定で駆除すべき害虫として指定されています。市長に駆除について伺います。

市長▼現在、被害が確認されており、限東地区のナラ枯れについて、カシノナガキクイムシが飛び立つ前であり、来年度の6月中旬までに宮城県の里山林健全化事業によって駆除を実施し、被害防止に努めるように検討中であります。

【日下議員】その他の質問

○農業の振興について
○賑わいの交流拠点施設（道の駅）の開発許可及び造成について

職員が確認したところ、島田石川口地区から鳩原地区にかけて葉が茶褐色に変色している状況が点在しておりまして、特に島田石川口周辺は、被害が深刻な状況であると受け止めております。

今後被害拡大が懸念されますことから、改めて市内全域において調査を行い、県に報告するなど対応策を検討していきたいと考えています。



教員の長時間労働と部活動問題について

八島定雄

議員▼勤務時間内で授業準備、教材研究、また児童生徒への指導などで、児童生徒と向き合う時間は適切に確保されているか伺います。

教育長▼学校は、子どもにとって安全・安心なところでなければなりません。また、学校の教育活動を効果的に行うためにも、日々指導している教職員が児童生徒と向き合う時間を確保することはとても重要なことと認識しています。各学校では、児童生徒と向き合う時間を確保する努力をしていますが、教職員の担当業務そのものも増加傾向にあるため、「児童生徒と向き合う時間が十分でない」、「時間を確保するためにその他の業務が本来の勤務時間に終わらない」等の現状があります。

部指導者）を導入する考えがあるか伺います。

教育長▼現在、部活指導員の導入は行っていません。しかし、学校教育法施行規則の改正により規定が整備された部活動指導員は、教職員の負担軽減や生徒の部活動指導の充実とその効果が期待できることから、今後、導入を検討します。そのために、部活動指導員の効果的な活用方法や人材確保も含めた体制の整備、保護者や地域の理解を得るための方策と部活動指導員を導入している地域からの情報収集を行い、期待できる成果や課題等を十分に把握し、学校の意見も聞きながら判断したいと考えております。

角田市育英会事業について

議員▼保育士確保の対策として、角田市育英会事業を見直し、給付型奨学金制度を検討しているとしていますが、その制度設計と今後の日程について伺います。

議員▼保育士確保の対策として、角田市育英会事業を見直し、給付型奨学金制度を検討しているとしていますが、その制度設計と今後の日程について伺います。

教育長▼本年5月に開催された角田市育英会の代議員会において、角田市育英会の今後のあり方について検討・協議を行い、「任意団体として運営している角田市育英会を市の一般会計に移行し、公金として管理し、一層の公平性・透明性を確保する」、「少子高齢化の地域課題に対応するための専門職の人材確保のため、一定の条件のもとに奨学金の返済を一部免除することで地域の人材確保を促進する制度を導入する」との方向性を確認し、現在、担当課において検討している段階です。

【八島議員】その他の質問
○国民健康保険の県単位化への移行に伴う課題について



支え合える社会の実現について

武田 暁

議員▼公益財団法人日本骨髄バンクの呼びかけによって、本年7月末現在における造血幹細胞提供希望者（以下「ドナー」という。）の登録者数は47万5,606人となり、患者とのヒト白血球抗原の型の適合率は96.4%と高率ですが、実際に移植が実現するのは5.4%にとどまっています。背景には、ドナーが骨髄等の提供に必要な検査・入院等で休業した場合に経済的な補填がないことや勤務先の理解が得にくいこと、健康不安を感じている年代のドナーがふえてきているなどが挙げられています。

県は本年6月の宮城県議会定例会において、骨髄移植のドナーに対する助成制度を平成30年度から導入し、今後、県内の各自治体へ働きかけを行うとの方針を示しました。ドナーが骨髄提供で入院した場合に休業補償として1日2万円、最大7日間を上限に市町村との折

半を想定するとの発表でした。社会的に求められているより広域的な支え合いと、命の瀬戸際に立たされている方々に対する支援の一環として、骨髄ドナーへの助成制度構築をすべきと考えますが、市長の所見を伺います。

市長▼現在、県で検討、調整を行っていると同っておりませんが、詳細は全く不明の状況です。今後、県から提供される情報をもとにどのような対応をすべきか検討してまいりたいと考えています。

議員▼外見からは障害があると思われる方が周囲の方々から援助を得られやすいようにと、東京都が2012年に作成したヘルプカードと呼ばれるものがあります。既に県を初め仙台市や仙南の一部自治体でも配布しています。角田市の長期総合計画後期基本計画に記載のある「障害のある人の不便さを理解し、必要とする支援が行えるよ

うに努めます」の項目実現に大きく寄与するものであると考えられることから、角田市においてもヘルプカードの作成と配布をすべきと考えますが、市長の所見を伺います。

市長▼病気や障害をお持ちの方を支援する方策としては有効だと思われまので、どのような内容のものか、今後検討していきたいと思えます。

議員▼ヘルプマークがJIS登録され、国を挙げて国民に対して理解と協力の呼びかけを行っています。市内でも周知させる方策もとるべきと考えますが、所見を伺います。

市長▼先ほどのヘルプカードの作成・配布の御質問と同じく、どのようにするか対応を検討させていただきます。



▲ヘルプマーク

議員▼角田市にはすばらしい「まつり」が数多くあり、市内外から多くのお客様が集まります。しかし、梅まつり・ずんだまつりでは、早々と商品が売り切れてしまい、遠路はるばる来たお客様から「期待を裏切られた」との声を聞くようになりました。

生産者や関係者が大変

うめ～梅まつり、角田ずんだまつりの今後の発展について

相澤 邦戸



な努力をしても追いつかない現状があります。

早々と商品が売り切れてしまう現状をどう捉えているか伺います。

市長▼関係者の方々のご尽力に敬意を表します。商品が早々と売り切れてしまうことについては、お客様に大変申し訳なく思っています。

議員▼生産商品の販売だけでなく、角田市のPR、交流人口の増進等も兼ねている「まつり」を市として継続するの伺います。

市長▼角田市の「3め」の「こめ・まめ・うめ」は角田市の特産品であり、それらの「まつり」を継続していくことに大きな意味があると思えます。

議員▼生産を高めるためには、休耕地利用の促進、生産商品・加工品の付加価値の向上、人材不足解消のための雇用等が必要と思えますが、これらに対する支援について伺います。

市長▼生産者を増やしていくためには、1日限りのイベント以外の販路の確保が必要だと思います。そのうえで機械導入などの支援も必要になると思えます。これらも含めて生産性が上がる方策を検

討します。

議員▼畑で枝豆を生産する場合、ニンニクや長いものように補助対象にすることはできないの伺います。

農政課長▼野菜の生産振興をはかるということで将来の生産規模拡大を前提として種苗代の生産振興補助をしています。枝豆についても道の駅開業に併せ、生産規模の拡大も考えられることから、この補助に該当するよう組織化していただきたいと思えます。また、機械の装備等、規模に応じて国・県の補助の選択肢も考えられます。

議員▼「まつり」の後の商品販売場所としては、道の駅が大きな役割を担うと思えますが、道の駅と現在の「まつり」を担ってきた関係者との連携のつなぎ役を行政に深い配慮をもって担っていただき、どのようにしていくのか伺います。

市長▼1日のイベントを1週間にする、場所を変えてする等、考えています。これまで係わってきただ方々に更に係わってほしい、一緒にやっていかねばならないと思っています。



短時間・局部的豪雨災害 防止対策の推進について

八島利美

議員▼近年、予測困難な短時間・局部的豪雨が日本各地で多発しており、日頃から防災に対する備えが重要です。3月に角田市防災マップ(水害編)が全戸配布されましたが、マップ作成の経緯と活用方法について伺います。

市長▼今回は想定し得る最大規模の降雨(2日間)の総雨量316.4mmによる洪水浸水想定区域と浸水深等を明示し、併せて指定緊急避難所と指定避難所一覧、水害発生時の心得や避難行動が掲載されているので、いざという時の避難等に活用してほしいと思います。

また、マップを活用した出前講座も今年度18回予定しています。

議員▼現在、宮城県で「土砂災害防止法に基づく基礎調査」を実施しています。その結果を踏まえ危険箇所の土留工事や防災無線設置などの安全対策が必要だと思えますがいかがですか。

市長▼土砂災害防止工事は、対象箇所によって受益者負担金が発生しますが、地域から要望があれば、県に早期着工を要望したいと考えています。

防災無線等は、土砂災害時だけでなく、ミサイル発射等でも必要性を感じると思います。2億円程度ですが、財政状況を考慮のうえ判断したいと思っています。

議員▼各自自主防災組織の活動は、地域の災害危険度の条件に合ったよりきめ細かい防災計画が必要です。危険度の高い地区にはそれに見合った防災予算と防災計画づくり等の支援が必要だと思

ます。市は、補助金交付要綱に基づいて交付していますが、危険度の高い地区に対して必要な資機材がある場合等、新たに補助金を追加できるように要綱を改正する必要があります。

議員▼9月3日、総合防災訓練が実施されましたが、日常的に防災意識を高めるためには、学校教育や生涯学習での防災教育と地区振興協議会事業(健康ウォーキング、運動会、敬老の集い等)を組み合わせるなど工夫が必要だと思えますが、今後の防災教育のあり方について伺います。

市長▼地区振興協議会等の事業で、防災訓練項目を組み合わせたことは、防災意識の醸成にも繋がるとともに、地区コミュニティも尚一層深まるので今後の参考にします。

議員▼9月3日、総合防災訓練が実施されましたが、日常的に防災意識を高めるためには、学校教育や生涯学習での防災教育と地区振興協議会事業(健康ウォーキング、運動会、敬老の集い等)を組み合わせるなど工夫が必要だと思えますが、今後の防災教育のあり方について伺います。

市長▼地区振興協議会等の事業で、防災訓練項目を組み合わせたことは、防災意識の醸成にも繋がるとともに、地区コミュニティも尚一層深まるので今後の参考にします。

教育長▼地域ぐるみで防災意識を持つことは大変重要なことであり、児童生徒にも防災意識を持たせることは大切なことだと考えます。学校での避難訓練や防災教育を進めながら防災意識を高め、市や地域の防災訓練があれば協力しながら、子どもたちと教員への防災意識の醸成に努めます。



市営墓地について

高橋力雄

議員▼今定例会に市営梶賀墓地の納骨室等の解体が計上されました。今後、ライフスタイルの変化や少子化、格差社会等の影響の問題が考えられます。どのようなことが発生するのかわかりませんが、事前の対策を講ずるべきと思いますが、市長の考えを伺います。

市長▼最近の社会情勢や墓地事情が浮き彫りになったと思っております。今後、超高齢社会の最終章として遺骨の処遇等も社会問題化してきていると思います。死亡者数が絶対的に増えていく社会になっていきま

私が増えるのではないかと考えられます。今回、はじめて市営墓地の管理者である角田市が、納骨室等を解体・撤去することになりましたが、今後、このようなケースが増えることが予想されます。

市営梶賀墓地の返還については毎年あり、市営墓地条例第13条の規定により、使用者又は承継者に原状復帰させて返還していただいております。

今回、無縁となられた方が、市営梶賀墓地に埋葬されているにもかかわらず、改葬までの手続きはなかったもの、もし改葬までするとすれば、縁故者等の調査、官報・立札による公告、改葬許可申請、改葬許可証の交付、改葬という5段階の手続きが必要となります。このように個人の墓地の改葬まで市が行うべきかも含めて、今後、検討しなければならぬと考えています。

近年、少子高齢化や核家族化が進み、ひとり暮らし世帯が多くなり、墓地の承継や墓掃除などの管理が難しくなっている状況にあります。今後、墓地については家代々のお墓が改葬され、個人や夫婦、無縁の墓地が増加

すると見込まれます。また、次世代に迷惑をかけられないと、共同納骨室を持つ永代供養墓の需要が増えてくるものと考えられます。公営墓地においても永代供養墓を設置する市町村が増えてきておりますので、今後、検討したいと考えております。

今回、無縁となられた方が、市営梶賀墓地に埋葬されているにもかかわらず、改葬までの手続きはなかったもの、もし改葬までするとすれば、縁故者等の調査、官報・立札による公告、改葬許可申請、改葬許可証の交付、改葬という5段階の手続きが必要となります。このように個人の墓地の改葬まで市が行うべきかも含めて、今後、検討しなければならぬと考えています。



角田市の防災について（水害・北朝鮮ミサイル対策について）

黒須 貫

議員▼異常気象による自然災害の脅威、北朝鮮の核兵器という人為的脅威への角田市の対応を伺います。

横堀川下流の内水対策について、丸森町小斎地区の堂畑樋管への強制排水施設の造成につき国・県への働きかけについて伺います。

市長▼関係機関とともに協議しながら、国土交通省へ引き続き要望していきます。

議員▼新桜井川中大坊橋下流の排水門の管理の所在と稼働の可否について伺います。

市長▼県、角田市、土地改良区と協議を進めており、今しばらく時間をいただきます。

議員▼9月3日の角田市総合防災訓練では、はじめて市街地での水害を想定した避難訓練が実施されました。結果をどのようにに総括しますか。

市長▼参加住民が洪水の際の指定緊急避難所まで安全に避難できる経路と時間を確認できたことは

有意義でした。要援護者の避難支援、医療機関・老人介護施設等との連携については今後の課題だと思いました。

議員▼緊急避難時には保育園・幼稚園・学校との連携が非常に大切ですが、訓練への参加はありませんでした。医療機関・老人介護施設等との連携も含め、今後どのように大規模避難を想定し訓練していくのですか。

市長▼学校は行事日程等で不参加でした。医療機関との連携として、医師会に依頼し今後には生かす視点での訓練の視察や緊急時の医者の行動についての講演を行いました。

できることはしましたが、不足の部分はあり、今、総括しているところです。

教育長▼各学校とも今後各市や地区の避難訓練に参加し、大規模訓練も想定していく考えです。学校主体から、地域主体の訓練に学校が取り込まれる体制づくりを検討します。

議員▼Jアラートが2度

発令されました。総括について伺います。

市長▼重要な課題です。定めのとおりJアラート送信を受け防災安全課職員が参集し情報収集に当たりました。なお、宮城県と隣県3県に落下した場合全職員参集、4県以外の日本領土・領海に落下した場合は自宅待機の態勢をとります。

議員▼Jアラートを隣町の防災無線で知った、まだ届かない市民がいたことを確認しています。自然災害対応も勘案し、限定的でも防災行政無線を設置すべきと考えますが、いかがですか。

市長▼設置について検討していきたいと思っております。

議員▼全市民に知らせる方途として、消防用サイレンを使用することはできませんか。

市長▼身近にあるものを工夫し使っていくことは大事です。機械だけでなく、原始的な方法も含め、2重3重に対応した方がいいと思います。

第389回臨時会

第389回臨時会が8月24日に招集され、1日の会期で行いました。

この臨時会では、2件の専決処分報告のほか、2件の契約に係る市長提議案について審議しました。

行政視察の報告

《総務財政常任委員会》

●視察期間

平成29年8月1日（火）～2日（水）

●視察地・目的・視察所感

①茨城県常陸太田市

『人口減少対策の具体的施策について』

常陸太田市は、先駆的な子育て支援策を展開しており、少子化・人口減少対策課という全国でも珍しい課があり、様々な人口減少対策に取り組んでいます。

常陸太田市の人口は、平成16年の市町村合併時には、約6万人だったものが、約5万1千人（平成29年4月現在）まで減少し、65歳以上の高齢化率は35%を超えています。

平成22年4月に庁内プロジェクトで

事請負契約の締結については、審議の結果、全会一致で可決されました。

また、平成29年度賑わいの交流拠点施設造成工事請負契約の締結については、審議の結果、賛成多数で可決されました。

傍聴者数

2人

インターネットライブ中継視聴者数

延べ 76件



▲常陸太田市議会議場にて

準備を進め、平成26年4月には少子化・人口減少対策係から4年を経て課に格上げし、人口減少対策に本腰を入れ、取り組みを進めています。



▲常陸太田市での研修のようす

数多くある事業の主なものとして、

◎定住の促進

新婚家庭の家賃補助、住宅取得促進助成、住宅取得促進助成金の交付対象者に対する住宅ローンの金利引き下げ

◎少子化対策

雇用の安定、投資奨励金、出会いの場創出

◎子どもの数を増やす施策（経済的負担の軽減）、不妊治療費助成、妊産婦医療費助成、乳児のおむつ購入費助成、乳幼児・幼稚園の保育料の減免、給食費の減額、乳幼児・小中高生医療費助成、放課後児童クラブの全域設置

があり、本腰で人口減少問題に取り組

んでいる様子が伺えました。

特に子育て世代にとつての経済的な負担を軽減することは定住の後押しとなり、人口減少対策の有効な手段となり得ると感じました。反面、市民ニーズに沿った形での支援は、福祉的な要素が多くあり、市の財政に対し、大きな負担となる点が課題であると思われる。

子育てについては、当市も他に先駆けて実施している事業も多くあり、これらを体系的に整理し、どの部分のどんな事業が不足しているか、常陸太田市等と比較し分析をする必要があると感じました。

また、財政が非常に厳しい現実の中で、すぐに結果が見えないのが人口減少問題であり、優先的な課題にいち早く取り組むこと、民間や地域の力を最大限に取り込むことが重要であると感じました。

②茨城県笠間市

『地域通貨かぼかについて』

茨城県笠間市は、茨城県の中央に位置し、城下町、笠間稲荷神社の門前町、地場産業としての笠間焼や稲田石の産地として栄えてきた人口約8万人の都市です。また、年間300万人が訪れる観光都市でもあります。

笠間市には、NPOや地域コミュニティ、環境、子ども関連の市民活動団体が1千団体以上ありますが、社会貢献に関する意識調査では、市民活動に関心があっても、きっかけや参加の

仕方が分からない人や関心がない人が多い現状がありました。

地域に興味を持ってもらい、市民活動に対して意識付け・気付けさせる「仕組みづくり」が必要であるとの認識から、2008年山口伸樹市長の発案で、「地域ポイント制度」を「市民活動の活性化」の手段として検討、2013年4月から「地域ポイント制度」を本格稼働させており、全庁上げての取り組みにトップの強い思いを感じました。

現在、地域通貨の取り組みは、全国で約600件を超えるといわれておりますが、多くは流通実験にとどまっております。中には地域通貨と呼べない事例や継続していても実質的に休止している事例も多く見受けられます。地域通

貨の流通が長続きしない理由としては、事務局機能が弱いことや、意義が十分理解されないことが考えられます。

笠間市が発行する地域通貨、かぼか（KapoCa）は、市民生活都市民活動課が中心となり社会実験を十分に行い、地域のボランティア活動や健康増進活動への参加を通じた地域活動に寄与しています。貯めたポイントは、市の特産物と交換したり、市からの交付金を必要としている民間事業の支援にも使うことができます。地域活性化や地域支援との結びつきが強く、協働のまちづくりの一翼を担っていると痛感しました。

課題としては、ポイント制度参加年齢を年代別に見ると、66歳以上の利用者が71%と圧倒的に多く、若い層の取り込みが必要であり、また、全人口に対する制度参加者（3,248人）が4%と低く、「地域ポイント制度」への参加者を増やすために、制度の周知や、広報のあり方に検討が必要と意思しました。

地域通貨の実施にあたっては、最初から大規模なものを目指すのではなく、身近な取り組みを着実に育てていく必要もあることから、「少しでも成果が見られればよし」とする考えも必要ではないかと感じました。



▲笠間市での研修のようす

市議会12月定例会

日程(予定)のお知らせ

- 11月29日(水) 招集告示、会派代表者会議
- 12月1日(金) 議員協議会、議会運営委員会
- 12月6日(水) 本会議(提案理由の説明)**
会派代表者会議
- 8日(金) 議会運営委員会
- 14日(木) 常任委員会(請願審査)
- 15日(金) 本会議(質疑・自由討議)**
会派代表者会議
- 18日(月) 常任委員会(議案審査)
- 19日(火) 常任委員会(議案審査)
- 20日(水) 議会運営委員会
- 21日(木) 本会議(討論・表決・一般質問)**
- 22日(金) 本会議(一般質問)**
議会運営委員会
- 25日(月) 本会議**

※請願及び陳情等の提出期限は、11月29日(水)までとなります。
 ※本会議の開会時刻は、午前10時です。
 ※太文字はライブ配信を行います。

議会を傍聴しませんか。

定例会は、年4回開催されます。皆さんの身近な問題が審議されており、どのような方針で市政が進められていくのか知ることができます。お気軽に足を運んでみませんか。

また、インターネットを利用したパソコン・スマートフォン・タブレット端末及び市役所東庁舎1階の市民ホールのテレビでもライブ中継がご覧になれます。

また、インターネットによる録画中継の配信も行っております



※日程は変更される場合がありますので、傍聴を希望される場合は、議会事務局(☎63-2124)にお問い合わせください。

第390回(平成29年9月)定例会

傍聴者数 10人
 インターネットライブ中継視聴者数 延べ106人

インターネット録画中継視聴者数
 7月~9月 延べ447人

議 会 日 誌

7月

27日 仙南地域広域行政事務組合定例会

8月

1日 かくだ市議会だより第193号発行
 総務財政常任委員会行政視察(〜2日)
 9日 宮城県後期高齢者医療広域連合議会定例会
 10日 会派代表者会議
 17日 第389回臨時会招集告示
 21日 会派代表者会議
 議員協議会

9月

1日 第390回定例会本会議(第1日)
 会派代表者会議
 正副委員長会議
 議会運営委員会
 5日 本会議(第2日)
 決算審査特別委員会
 11日 本会議(第3日)
 議会運営委員会
 29日 議員協議会
 議会運営委員会

10月

3日 本会議(第6日)
 総務財政常任委員会
 教育厚生常任委員会
 産業建設常任委員会
 議会運営委員会
 議会だより編集会議
 5日 埼玉県桶川市民生経済常任委員会行政視察
 6日 神奈川県綾瀬市経済建設常任委員会行政視察
 11日 東北市議会議長会事務局職員研修会(〜12日・山形県天童市)
 12日 全国市議会議長会基地協議会東北部会役員会(〜13日・東松島市)
 13日 議会だより編集会議

編集後記

9月は決算議会とも言われ、前年度の予算の使い方が適切であったかどうかを審査する議会でありました。決算審査特別委員会を設置し、所管する事項別に3つの分科会(総務財政、教育厚生、産業建設)にて細部にわたって質疑応答が展開されました。

また、定例会最終日には3つの常任委員会の新たな委員と正副委員長が選任されました。「常に新しい角田市議会」の実現のために邁進して参ります。

議会だより編集会議